

# 生涯発達心理学 ～2017

科目コード

**FD2502・  
FD2563**



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
<b>4</b>	<b>R or SR</b> (講義)	<b>1</b> 年以上	<b>中村 修</b>

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。

※2018年度以降に入学した方は、p. 127「発達心理学」（科目コード：FD3543、2単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「レポート学習」「科目修了試験」以外の項目は、p. 127「発達心理学」（科目コード：FD3543）を参照してください。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更されました。

科目コード FD2502 2018年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）

FD2563 上記以外の方（スクーリング単位1単位）

## レポート学習

### ■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① (序章、1章-2)	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか② (1章-3、4、5)	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、Bronfenbrenner、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論 (3章-1)	ピアジェの発達理論について理解する キーワード：ピアジェ、スキーマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達 (4章-3、4)	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	幼児期①：言葉と表象 (5章－1、2、3)	言葉の発達の基盤についての理解 キーワード：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
6	幼児期②：自己の発達 (6章－1、2、3、4)	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて キーワード：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 (7章－1、2)	社会性の発達の理解、特に他者の意図の理解について キーワード：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：子どもと学校 (8章－1)	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から キーワード：前操作期、自己中心性(中心化)、保存課題、3つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。
9	青年期の発達①：自己認知 (9章－1、2)	青年期の発達の理解、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係 (9章－3、4)	青年期の発達の理解、特に同年代他者との関係から キーワード：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達 (10章－1、2)	青年期の発達の理解、特にアイデンティティの形成という観点から キーワード：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティと何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステータス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人期中期から後期①：世代性、職業・キャリア発達 (11章－1、2)	成人期中期以降の発達についての理解、特にキャリア発達の観点から キーワード：世代性、アイデンティティ再体制化、メンタリング	成人期中期以降の発達の变化について、 ①アイデンティティの再体制化とは何か ②世代性とは何かを理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 (12章-1、2)	老年期の発達を理解、特に認知機能について キーワード：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達的变化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
14	発達をつまずき① (13章-1、2)	発達をつまずき、特に発達障害の理解 キーワード：発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症(学習障害)、個別支援、環境調整、二次障害	①発達をつまずきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し、基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
15	1回目から14回目までの振り返り	生涯にわたる発達の变化的まとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。
16	発達するとはどういうことか③ (1章-1)	発達とはどういうことと考えられてきたか キーワード：発達観、発達のゴール上昇的变化	①発達とはどういうことかを理解するうえで、昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方と現在の生涯発達心理学での発達の考え方の相違点を明確にする。
17	胎児期 (2章)	胎児の特徴を学ぶ キーワード：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
18	乳児期② (3章-2、3)	認知機能の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：目と手の協応、選択注視法、馴化-脱馴化法、対象の永続性、社会性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究方法を理解する。
19	乳児期③：乳児-養育者間コミュニケーション (4章-1、2)	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑	乳児の対人関係形成の基盤について理解する。
20	幼児期④：遊びの発達 (5章-4)	遊びの発達についての理解 キーワード：機能遊び、象徴遊び、並行遊び、連合遊び、協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ、遊びの変遷を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
21	幼児期⑤：社会性の発達、仲間関係（7章－3）	社会性の発達、特に同年代関係について キーワード：ギャング・グループ、社会的比較、ねたみ	仲間（同年代他者）との関係の中でみられる社会性の発達を理解する。
22	幼児期⑥：自己制御の発達（6章－5）	自己の発達の理解、特に自己制御について キーワード：自己制御、自己主張、自己抑制、文化差、しつけ、発達期待	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する要因について理解する。
23	児童期②：認知機能の発達（8章－2、3、4）	児童期の認知機能の発達、特にメタ認知という観点から キーワード：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、動機づけ、メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
24	青年期の発達③：親子関係（9章－5）	青年期の発達の理解、特に異年代との関係から キーワード：心理的離乳、脱衛星化、自立、対立的関係、分離と統合	青年期における親子関係の変化について、 ①心理的離乳という概念 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ捉えてよいか、よくない場合にはどのようなとらえ方が可能なのかを理解する。
25	青年期から成人期へ②：キャリアの選択（10章－3）	成人期前期の発達の理解、特にキャリアという観点から キーワード：やりたいことへのこだわり、キャリア、主体的形成	キャリア形成という観点から「青年期から成人期への移行」について理解する。
26	成人期初期（10章－4、5）	成人期前期の発達の理解、特に家庭生活という観点から キーワード：晩婚化、非婚化、ライフコース、性役割観、ライフイベント	ライフコースの選択と見直しという観点から成人期前期の発達、及びその時代的変遷について理解する。
27	成人期中期から後期②：親として、子としての発達（11章－3、4、5）	成人期中期以降の発達、特に親役割の変化という観点から キーワード：養護性、親の成長、子どもの自立、夫婦関係の見直し、子育て不安、介護、ジェネレイショナル・ケア、親役割	成人期中期以降の発達の变化について、 ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
28	老年期②：パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジング（12章－3、4）	老年期の発達の理解、特に「人生の統合」という観点から キーワード：ライフレビュー、老年的超越、サクセスフル・エイジング、ソーシャルネットワーク、コンボイ、死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
29	発達をつまづき ② (13章 3、4、5)	発達をつまづき、ある発達期に特徴的なつまづきの理解 キーワード：リスク要因、プロテクト要因、不登校、ひきこもり、反社会的障害、摂食障害、喪失、認知症、生活環境、可塑性	①発達期のそれぞれに特有のつまづきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。
30	16回目から29回目までのふり返り	生涯にわたる発達の变化的まとめ	①1回目から15回目で学んだ発達の各時期、発達の諸側面の内容と16回目から29回目までの内容を結び付けておく。 ②幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ③幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「対人関係」「同年代関係」「異年代関係」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

## ■レポート課題

※本科目の論述式レポートは、それぞれ別の提出台紙に貼り付けて提出してください（2冊必要）。

1 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者—子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という2つの側面からまとめること。
2 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
3 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
4 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書1つをとってもある事柄が説明されている箇所は1か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位め  
アドバイス

この課題は「4章」「5章」が中心となりますが、「2章3」「13章3」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者—子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者—子相互作用の重要性を強調するのも1つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「5章2」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者—子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者—子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

旧教科書の方は、「5章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達の变化」が中心となりますが、「3章Ⅲ」「4章Ⅱ」「9章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

3単位め  
アドバイス

この課題は教科書の「1章」が中心となりますが、「序章」「12章2」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつかないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどういうものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のじっくりくる説明を探してみよう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう（心理学辞典・事典に載っている）「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づききっかけになるかもしれません。

旧教科書の方は、「序章1」「1章Ⅱ、Ⅳ」を中心に、教科書以外から「バルテス」という生涯発達心理学者の発達の定義・とらえ方について調べて、レポートをまとめてください。

2・4単位め  
アドバイス

教科書をよく読み、「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

## ■レポート 評価基準

---

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

## 科目修了試験

### ■評価基準

---

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。